

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.1
Q1 室内環境				0.40		-	3.2
1 音環境			2.7	0.15	2.3	1.00	2.7
1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音			2.4	0.40	2.3	0.40	
1 開口部遮音性能	—		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—		2.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	—		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境			3.4	0.35	3.4	1.00	3.4
2.1 室温制御			3.8	0.50	3.8	0.50	
1 室温	—		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	窓ガラスはU値=1.6、 η =0.38の仕様とした。		5.0	0.25	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システムとした。		4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	—		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式	—		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			2.7	0.25	3.4	1.00	2.8
3.1 昼光利用			1.8	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率	—		1.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口	—		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	—		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレシア対策			3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	ブラインドを設置しグレシアを制御した。		3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	共用部は500lx以上、共用部は150lx以上を確保した。		4.0	0.15	4.0	0.15	
3.4 照明制御	—		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.5	0.25	3.1	1.00	3.5
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質	—		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気			3.5	0.30	3.3	0.38	
1 換気量	換気量は30m ³ /(h・人)を確保した。		4.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能	—		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	敷地全体を禁煙とした。		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.6
1 機能性			3.4	0.40	4.4	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	・1床あたり内法面積20㎡以上を確保した。		-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応	—		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	—		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	病室の天井高さは2.5mとした。		-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—		-	-	-	-	
3 内装計画	CGやパースにより、加点項目を検討した。		5.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	—		2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			4.0	0.30	-	-	4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			4.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	一部の建物で免震装置を設置している。		4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房系統はSUS、実験系統は塩化ビニル、高湿系統は水抜き		4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			4.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	熱源の分散化、吊配管、空調設備の系統区分		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水器具、雨水中水利用、災害時用排水槽		5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電設備と無停電電源設備を整備。		5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	—		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	—		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.5	0.30	3.6	1.00	3.5
	3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	4.2	0.50	
	1	階高のゆとり	階高は3.7m以上としている。	4.0	0.60	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率を0.24として計画をした。	4.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	建物機能を維持しながら容易に機器の更新ができる計画とした。	5.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを確保した。	4.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネ計算プログラム(非住宅版) モデル建物法Ver 3.6によりBPIm 0.67	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.4	0.50	-	-	2.4
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	用途別電気消費量を監視することで運用状況の把握、分析が可能	4.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.3
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓、擬音装置付便器	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材他2品目は特定調達品目を採用	5.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
	1	消火剤	窒素ガス消火設備	4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		LCCO2の排出率が93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.50	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.50	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.3.1 維持管理に配慮した設計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.1 空調・換気設備	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.2 給排水・衛生設備	6.0	5.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.5 通信・情報設備	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.1 材料使用量の削減	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.1 有害物質を含まない材料の使用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.2.2 砂塵の抑制	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	0.4
U値(W/m2K)	窓システム 1.6	屋根 0.5	外壁 0.4
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
屋光率	-	η AH	-
自然換気有効開口面積率	-		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	20.0㎡/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/㎡						
天井高	2.5 m							
リフレッシュスペース	-	レストスペース	-					
想定耐用年数	-	年						
想定必要間隔	-	年						
想定必要間隔	-	年						
想定必要間隔	-	年						
階高	3.9 m							
壁長さ比率	24.0%							
床荷重	-	N/m2						

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

外構緑化指数	-	建物緑化指数	-
空地率	-	水平投影面積率	-
地表面对策面積率	-	舗装面積率	-
BPI/BPI _m	0.67	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	-
		採光を満たす住戸数	-
		通風を満たす教室数	-
		通風を満たす住戸数	-
BPI/BPI _m	非住宅 0.92	住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	-														
特定調達品目	断熱材他	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-										
使用比率	-														
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-												
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-												
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-												

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	-	隣接間隔指標Rw	-
地表面对策面積率	-	屋根面对策面積率	-
外壁面对策面積率	-		
見付面積Sb	-	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	-
緑地	㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		